



学校だより

11月号

～友だちいっぱい 夢いっぱい 未来へ向かって かがやく星の子～



心に響く芸術の秋

校長 西山 久美子

一斉登校が再開し1か月が過ぎました。感染症対策の徹底は継続しながらも、段階的に活動の幅を広げ、学年での活動や特別教室での学習も進めてきました。子ども達が直に顔を合わせて、言葉を紡ぎながら思いを伝え合うこと、そして学級の仲間と一つ一つの課題を解決していくことが、いかに素晴らしいことであるか実感しております。延期していた運動会を2週間後に控え、まさに今、みんなで一つのことをつくり上げる楽しさやうれしさを感じているのだと思います。職員一同、子どもたちの頑張りを大いに励まし、充実感、達成感を味わえる運動会になるよう取り組んでまいります。

さて、秋が深まってきました。スポーツの秋、読書の秋、そして芸術の秋・・・何をするのにも気持ちの良い季節です。学校では10月からのガイドラインに則り、歌唱や器楽の学習も増やしてきました。音楽室や教室から歌声や楽器の音が聞こえると、ついついそちらに足が向いてしまいます。子どもたちの声は何とも言えない優しさがあり、校舎に響く「音楽」から芸術の秋を感じています。

ところで、私たちは、いつも「音」や「音楽」に囲まれて生活しています。「音楽」を聴くことで、元気が出たり、楽しくなったり、感動したりすることもあります。また、お気に入りの歌は誰しももっていることでしょうし、CDをかけたり鼻歌を歌ったりすることもあることでしょう。学校では、歌ったり楽器を演奏したり、音楽をつくったり、鑑賞したりする活動を通して、音楽の知識や技能を習得していますが、それと同時に「いい曲だな。」「心に響く歌だな。」など「音」を豊かに感じる心を育てることも大切にしています。また、「こんなふうに歌いたいな。」「こんなリズムをつくったよ。」と自分の思いを表現する楽しさも味わってほしいと考えます。さらに、合唱や合奏の学習では、友達と息を合わせること、友達の「音」をよく聴いて自分の「音」を重ねることなどの経験を通して、相手のことを考えることの大切さを学び、みんなで取り組むことが楽しいと感じる心を育てることができるのだと思います。このような音楽の学習はもちろん、学校での様々な活動経験を通して、子どもたちの感性を豊かにすることや、人への優しさを育てることを大切にしていきたいと思っています。



秋が深まるこの季節に、子どもたちの「すてきだな。」「きれいだな。」「楽しいな。」というつぶやきをたくさん聞くことができると楽しみにしています。

